

日税メールステーション 特別号

海外基本情報

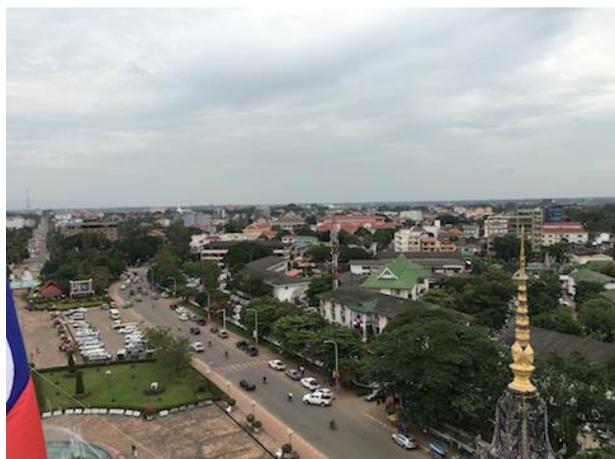
第23回 ラオス編(3)

メールマガジンをお読みの皆様こんにちは、株式会社コアブリッジの柳です。
今号では現地の様子をお届けします。

■街の様子

首都ビエンチャンでもとてもこじんまりとしていて、高い建物がなく、人や交通量が比較的小さいのが特徴的です。夜は18時にもなると、街灯が少ないため、暗くなります。街は、新興国にありがちな、ゴミが散乱して汚れているということはなくきれいです。

交通手段はあまり整備されておらず、地下鉄はもちろんのこと、タクシーも流しのもはありません(すぐ拾えるのはトゥクトゥクくらい)。車の運転は比較的穏やかで、危険な感じがしないのは助かります。とはいえ、朝晩は他国の首都同様、自動車の渋滞になります。もともと、他の国の首都と比べれば可愛いものですし、バイクの数はさほど多くはないです。渋滞緩和策として2012年から幹線道路を走る都バスが運行されています。バス停以外でも乗り降りできる方式です。日本から寄贈された車両が使われていて、バスターミナルに行くと日の丸マークの入ったバスが並んでいます。



左:ビエンチャンの街。ご覧の通り、高い建物がありません。

右:バスターミナル。左のバスは日本から寄贈されたもので、左下に日の丸が描かれているのが見えます。

街を走る自動車は、トヨタの他に、HYUNDAI や KIA など韓国製が多いです。ラオスには韓

国がだいぶ入り込んでいて、韓国語の看板や韓国人を多く見かけます。

OECD(経済協力開発機構)のデータ<<http://stats.oecd.org/qwids/>>によると、2014年のラオスに対するODA(政府開発援助)の金額は、G7全体で174M\$(※M\$は100万米ドル)、そのうち日本が6割以上の107M\$と突出しています。同年の韓国は29M\$と、第2位のオーストラリアの53M\$、第3位のドイツ32M\$に次いで4位です。

OECDのデータにはありませんが、隣接するタイ、ベトナム、中国の影響は大きいものです。特にメコン川を隔てた隣国タイの影響は大きく、工業製品の多くはタイからのものです。

日本の存在感は正直あまりないのですが、総じて好意的に見られているようです。

ビエンチャンの街中の一隅。
MK RESTAURANTS は外食店、
TURE COFFEE はカフェ、どちらも
タイのチェーン店で、タイの影響は
こんな所にも見えます。
しかし電線の量のすごいこと...



ラオスの人は基本的に穏やかで親切です。何というか、とても素朴で、スレている人が少なく、静かに暮しているという印象です。もっとも、プライドが高いというのは他の国と共通しているので、礼儀を持って接するのが前提ですが。

ちなみに、ラオスでは基本的にチップの習慣がなく、この点は気が楽です。

■インフラ状況

ラオスは水力発電による電力供給力が高く、隣国に電気を輸出しているほどです。カンボジアやミャンマーなどが深刻な電力不足であるのと対照的で、安価で安定して電気が供給されるというのは大きな長所です。ただ、気温が上がり水が少なくなる乾季には、逆に電気を輸入しています。

2015年時点の電話の普及率は、ITUの統計データによれば<<http://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Pages/stat/default.aspx>>、固定電話は13.7%(お隣のタイは7.9%、日本は50.2%)、携帯電話は53.1%(タイは125.8%、日本は125.1%)です。携帯電話は高額商品のため、普及してきたのもここ数年です。現地の人に聞くと、スマートフォンはAppleやSamsungが人気らしいですが、やはり高く、中国のHUAWEIやOPPO製

をよく見かけます。携帯電話の通信速度も、ムラはあるにせよ、3G通信で数MB程度出ているので、通信環境はだいぶ整ってきている印象です。

■ラオスの食事

主食は米ですが、餅米をよく食べます。手で取って食べるため、かなり固めの蒸し具合です。

ラオス料理はタイ北部(イーサーン地方)の料理と類似しています。ラオスの代表的な料理の一つに「ラープ」があります。肉(鶏、豚、牛、アヒルや魚)を細かく刻んだものにミントの葉や野菜を混ぜて、ライムと魚醤で味付けしたものです。餅米を片手で取って丸めて少しくぼみを作り、そこにラープを挟んで食べます。

他に、青パパイヤサラダの”タム・マークフン”(タイのソムタム)やローストチキンの”ピン・ガイ”(タイのガイ・ヤーン)などが定番です。ルアンパバーンなどラオス北部では、辛味噌をのせた麺料理の”カオ・ソーイ”も有名です(タイのチェンマイのカオソーイはカレー味でそれとは違う料理です)。

フランスの植民地であったこともあり、ベトナムと同様、コーヒーも特産品です。深煎りの豆で濃い目に入れ、たっぷりの練乳を入れて飲みます。非常に甘いですが、これがなかなかイケます。



左:鶏肉のラープ。餅米にとても合います。

右:カオソーイ。ルアンパバーンなど北部でよく食べられます。ちょっと辛い、担々麺風きし麺。

日本人にはあまり馴染みのないラオス。国連から後発開発途上国に指定され<http://www.un.org/en/development/desa/policy/cdp/ldc/ldc_data.shtml>、最貧国の一つと見なされています。しかし、タイ次の海外生産拠点として”タイプラスワン”の一国にも挙げられ、先月に行われた ASEAN 外相会議では議長国を務め、我々の目に触れることも増

えてきました。昨年末に結成された ASEAN 経済共同体 AEC の今後とともに注視していきましょう。

ラオス編は今回でひとまず終了です。次回からはマレーシア編をお届けします。ではまた次号でお会いしましょう。

※本文中の数値や URL 等は執筆当時のものです

執筆者

柳 恵太 (やなぎ けいた)

株式会社コアブリッジ代表取締役。

ソフトウェア開発会社、メーカー、教育ベンダーを経て、2014年に株式会社コアブリッジを設立。これまでの、システム開発の上流から下流、受託側から発注側、エンジニアからプロジェクトマネージャー、ユーザーと開発者、企画・営業・開発・提供、日本と海外、社員から経営者といった、組織における幅広い役割を活かし、主に IT 企業向けの人材育成やコンサルティング等のサービスを提供している。

情報提供元:



株式会社コアブリッジ

<http://www.corebridge.co.jp/>

※本コラムは、<http://www.corebridge.co.jp/column.html> でもご覧になれます。